

○議長(森 弘秋君) ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

6番 竹島貴行君。

○6番(竹島貴行君) 6番竹島貴行です。私は一般質問として通告しております2つのことについてお聞きいたします。

1つ目は、村内に潜む危険への対応についてであります。この質問につきましては、先ほどの前原議員の質問とかぶる点があることをお許しいただきたいと思えます。

最近、高齢者が絡む事故等がクローズアップされ、競うように報道されております。ことし春の交通安全運動では、子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故抑止が重点目標として掲げられ、子どもと高齢者を意識した取り組みもなされましたが、全国的に痛ましい事故が続いております。

用水事故でも富山県内では犠牲者が何人も出ており、昨日も南砺市で事故が発生し、犠牲者が出ました。また、村でも、この春まで同僚議員であった明和善一郎氏が用水に転落し亡くなるという痛ましい事故が発生しました。

発生した事案の原因や理由を解明し、犠牲者を出さないよう対策に結びつけていくことは社会に課せられた責務であり、村としても住民に降りかかる危険要因を排除していく使命を担っているということは言うまでもありません。これまでも住民による安心・安全に対する危険箇所の抽出と点検活動が行われてきていると思っておりますが、村も活動に当然かかわっていると思っております。

そこで、村では、これまで抽出された危険箇所についてどのような方針で対応されてきたのか、また今後において安全対策にどのように対応していくのか、その取り組みに対する考えをお尋ねいたします。

次に、今般スタートいたしました新たな議会について、二元代表制の観点から所見をお尋ねしたいと思います。

議会は、議員のなり手不足という大きな課題を踏まえつつ、住民の関心を引き出すため選挙という形をつくり出すため、前議会において定数削減という自ら身を切る選択を行いました。舟橋村議会議員選挙は、平成時代最後の統一地方選挙後半の部で富山県内15市町村の中で唯一執り行われ、村内外から注目を浴びる選挙となりました。そして、村の有権者の選択という洗礼と負託を得た議員により、今般、新たな議会がスタートしたわけでありませぬ。

定数削減により議員個々の責任は、これまで以上に重いものになると考えておりますが、これから真価が問われていくこととなります。時代が大きく変わっていく中で、議会も住民第一義の議会、そして住民の負託に応える議会として変革していくことを私は期待します。

そこで、対岸ではないんですが、ともにこの議会を支えていく村長の立場として、議会に期待されることがあれば所見を伺いたいと思います。

よろしく願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 6番竹島議員の危険箇所についてのご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、安全で住みよいまちづくりに向けて、村ではこれまで、道路安全施設の点検や見回り等を定期的を実施し、危険箇所の把握を行ってまいりました。ガードレールや防犯灯、道路の舗装状況等を確認し、老朽化が目立つ物や破損等があれば速やかに修繕工事を実施してきたところであります。

小中学校では、集団登校の経路の選定における配慮を行うことや安全点検を行うことはもちろん、上市警察署や交通指導員さんのご協力のもと、定期的な自転車講習や交通安全講習等を実施いただいております。

また、上市警察署や交通安全協会、防犯協会等の各種関係団体の皆様にもご協力いただきまして、日ごろからの啓蒙活動に積極的に取り組んでおります。その一部をご紹介しますと、交通安全関係ですと、春と秋の交通安全運動期間中を中心とする反射材の配布や街頭での監視や呼びかけ、上市区域交通安全協会の主催による運転者講習会の実施などを行っております。また、防犯関係ですと、各地区の自治会長さんを中心に構成するばんどりパトロール隊の皆様には、毎月の防犯パトロールにおいて、電灯が切れているなど危険箇所がないか等の確認や京坪川河川公園を中心とした、夜のたまり場となりやすい箇所の見回り等にもご尽力をいただいているところであります。

一方、各自治会の皆様から、車の速度規制や安全対策等に対する地区要望が出された際には、駐在官や上市警察署の協力を得まして随時現地確認を行い、その実情に応じて速度の取り締まりや見回りの強化、標識や横断歩道の設置等を行っていただいております。

さて、本村の交通事故発生状況を見ますと、平成29年の人身事故件数が12件であ

ったのに対し、平成30年度は5件となり7件の減となったほか、一昨年度には55件であった物損事故は33件と、前年に比べ22件も減少しております。また、本村における刑法犯認知件数についても、平成29年の8件から、平成30年には4件と減少している状況にあり、これらは、こうした啓蒙活動等によって村民の安全・安心に対する意識が高まっていることに起因するものと考えております。

ご承知のとおり、危険はどんなところに潜んでいるか想像もつかないことがあります。全く予期しないところから事故や事件に巻き込まれ、自分が注意していても回避できないようなことも起こり得ます。大切なことは、役場や上市警察署をはじめとする関係機関はもちろん、住民の皆様を含めた多くの人の目で地域を見渡し、危険箇所についての認識を深めることだと思っております。

村といたしましては、村民の皆さんが安全・安心に暮らせるよう、関係機関との連携を強化しつつ、対応が必要なものがあれば速やかに対処していきたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします、答弁いたします。

○議長（森 弘秋君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 6番竹島議員のご質問にお答えいたします。

村議会では今日まで、村民の皆さんに議会への関心を持っていただくことで、より多くの村民の声を村政に反映することができる開かれた議会とするために、改革に主体性を持って取り組んでこられました。

昨年の12月定例議会では、議員提出議案として提出されました、議員定数8名から7名にする舟橋村議会議員の定数に関する条例一部改正案件が可決されました。このことは、昭和46年に12名から8名に改正されて以来、まさに48年ぶりのことでありまして、平成19年の統一地方選挙以来、無投票当選が続くなど、議員のなり手不足が課題となる中で、議員の皆さんが自ら身を切る改革として行われたものと理解をしているところであります。

そして、今年4月に執行されました村議会議員選挙では12年ぶりの選挙戦となり、その結果、3名の方が新人議員として、この令和の時代初の議会より本格的な活動をされることになったのであります。

一方で、ご承知のとおりと存じますが、村を取り巻く住環境は、平成時代の30年余りの間に著しく変貌を遂げております。まず、村の人口は倍増いたしまして、その人口増に伴う施策の取り組みから公共施設やインフラ整備も充実してまいりまして、現在で

は村内外から注目される、非常に活気のある自治体となっております。しかしながら、その一方では、コミュニティの希薄化や近い将来の急激な高齢化をはじめとする諸課題が顕在化し、その対応も喫緊の課題となっている状況であると認識しております。

このような村勢の中で、老若男女、新旧住民を問わず、より多くの村民の声を村政に反映させることや、村当局と議会、そして住民が一丸となってこの日本一小さな舟橋村の未来を創造していくことは、非常に重要なことだと認識しております。時代の隆盛を鑑み、これからの我が舟橋村にふさわしい改革を検討されまして、住民の皆様にかかれた議会となりますよう一層のご努力をお願いする次第であります。

議員各位には、今後4年間の任期の中で、新旧住民のかけ橋となって、舟橋村の発展のためにますますご尽力いただくことを私からお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 竹島貴行君。

○6番（竹島貴行君） 今ほどのご丁寧な答弁、ありがとうございました。

まず1つ、この安心・安全を守るということにつきまして、再質問させていただきたいと思います。

先ほどの前原議員からも出た言葉であります。この対策を立てる上で何かガイドライン的なものはないのかという、そういう言葉があったと思いますが、それについては、先ほどは答弁にはなかったというふうに思いますので、その点をお聞きしたいと思えます。

時代が激しい変化をしていく中で、そういったものを村として、今後、安心・安全を考える上での対策の基本指針となるガイドラインというものを設けるといふか、そういうものをつくるということに取り組んではどうかなというふうに私は思っております。それがあれば、住民の皆さんにもいろんなやりとりで説明もしやすくなり、また皆さんも考えやすくなるという利点があるかと思えます。その点をお聞きしたいと思えます。

また、今、村長の議会に対する期待をしていただきましたことについて、今後、この議会でも真摯に受けとめて取り組んでいかないかと思っておりますが、議会の果たす大きな役割の一つに、定例会で示された議案についての決定をするという、そういう責任があります。これについては、しっかりとその中身を把握して、議会で住民の皆さんに決定したことについてしっかりと説明していくという責任を担っていかねばならないというふうに考えています。この点を心に受けとめて頑張っていく所存でありま

す。

松本課長、ひとつ再答弁をよろしくお願いします。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 竹島議員の再質問にお答えします。

現在、ガイドライン等については持ち合わせていないわけですが、ご指摘のありましたとおり、そういったものがあればというところもございますので、今後、作成について検討をさせていただきたいと思っております。

以上です。